

「災害に強い

病院であるために」

福田幾夫（胸部心臓血管外
科学講座 教授）、池内淳
子、鵜飼卓編 医葉ジャー
ナル社

東日本大震災後の手術室のアンケート調査で、救急分野の医師のみでなく病院防災に関わる建築家や栄養士さんなど様々な分野の人たちと知遇を得ました。これをきっかけに、「災害につよい病院であるために」をまとめました。この本は東日本大震災だけでなく、災害大国であ

る我が国の病院が過去にどんな被害を被ったのかを調べてまとめたものです。東日本大震災では、太平洋沿岸の十病院が津波のため全壊しました。この中には、入院患者と病院職員全員が亡くなっているところや、津波に襲われて孤立した病院もあります。阪神淡路大震災でも、全壊した病院や周辺の火災で患者の避難を余儀なくされた病院があることはあまり知られていません。病院の災害への備えは重要だとの思いで、様々な視点から執筆しました。日本列島は戦後の地震平穏期から地震活動期に入ったとされています。火山の活

動も活発化し、地球温暖化は台風・ハリケーンを巨大化させています。病院も災害被害を受けることを考えて備えをしていかなければならない時代に入ったのではないかと思えます。拙著が病院の防災の備えの一助となればと思っております。

